

松原川に 帰ってきた河童さん ～松原川環境整備～



江戸時代、城下東側の武家地などに生活用水を届けるために造られた人工河川、松原川。その松原川には河童がいたという伝説があり、松原河童社には河童像が安置されています。

知

和50年代前半、生活様式等の変化により松原川の汚れはピークに達していました。そのような中、市民のボランティアグループにより、昭和55年(1980)から松原川の清掃活動が始まり、徐々に元の水質を取り戻していきました。昭和61年(1986)には、こうした市民による水の浄化活動などが評価され、佐賀市は建設省からアクアトピア都市(親水都市)に指定されました。

さらに松原川界隈の賑わいを取り戻し、市民の憩いの場となるように、昭和63年度から平成3年度の4年間で松原川環境整備事業が行われました。佐嘉神社角の交番付近からポンポン井樋までの約750mの区間で、車道を狭めて石畳としたり、水中に竿石を使った親水歩道を整備したり、ガス灯風の照明や石灯籠などを設置して情緒ある雰囲気を作り出しました。整備が進む中で当時の佐賀市長は、かつて松原川にいたとされる河童「兵主部」宛に、「綺麗になった川に戻ってきて欲しい」と年賀状を出しました。すると河童は家族とともに戻ってきて、今も市民を見守ってくれています。



環境整備後の松原川



松原川に帰ってきた河童の家族

